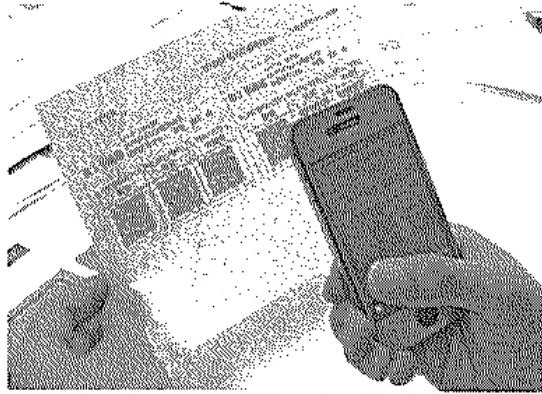


スマホで簡単電子投票

分譲マンションの管理組合の総会で初めてとなる電子投票が9日、相模原市のマンションで行われる。管理会社の三菱地所コミュニケーション（東京）が、携帯電話やスマートフォン（高機能携帯電話）で投票を済ませられる初めてのシステム「e投票」を開発したグラント（大阪市北区、山崎元彰社長）と契約を結んだ。

電子投票により、管理会社は総会運営に割く時間が短縮されるうえ、管理組合の役員の負担も軽減されるメリットがある。グラントは全国の大規模マンションの約1割にあたる1万2千棟にe投票を導入する目標を掲げている。

分譲マンション総会で初



マンション管理組合向けの「e投票」システム。携帯電話のカメラでバーコードを読み取ることで投票できる

e投票は、各住人が従来型携帯電話やスマホ、パソコンでインターネットに接続し、投票を済ませる。従来どおり紙で投票することも可能。管理会社は、専用の投票用紙のQRコードを読み取ることですべての投票結果を電子化で

きる。
全国初の事例となる相模原市緑区のマンション、ミッドオアシスタワーズ（705戸）は、事前に管理規約を改定し、総会で電磁的方法による投票を可能にした。9日に総会を開くという。

電子投票であれば、総会で挙手する必要がないためプライバシーが保護される。総会を欠席する場合でも事前投票で議決権を行使できる。山崎社長は「従来の投票では委任状の取り付けなどで意見誘導の余地があるが、e投票なら公正さが保たれる」と話す。

価格は戸数にかかわらず初期費用2万円と年間5万円に抑えた。グラントは今後、全国にある150戸超の大規模マンションの約1割にあたる1万2千棟をめどにe投票の浸透を目指す。